

研修報告書

報告日：令和7年1月22日

グループ名：ひとひとネット武雄

概 要	研修名：第26回全国シェルターシンポジウム 2024inKOBE 日 時：令和6年11月23日13時00分～6年11月24日16時40分 場 所：神戸国際会議場（神戸市） 参集者：約700人（ひとひとネット武雄からの参加者3名含む）
目 的	DV被害などの困難を抱える女性たちの“シェルター”を運営する民間団体などのネットワーク「全国シェルターネット」の全国大会に参加することで、国内の相談の現状やノウハウを学び、被害者支援で重要なシェルターへの避難などを学ぶ。また全国の団体との連携を深める。
内 容	<p>【プログラム】</p> <p><u>11/23</u> 12:20～ シンポジウム受付（神戸国際会議場） 13:00～16:30 シンポジウム 実践報告・パネルディスカッション 18:30～20:30 交流会</p> <p><u>11/24</u> 9:40～ 分科会受付開始 10:00～12:30 分科会 ①被害者支援としての加害者プログラムのしくみ ②共同親権 ③性暴力問題と性暴力被害者支援 ④デジタル化・スマホ必携が進む社会とDV・性暴力</p> <p>13:45～15:45 全体シンポジウム 16:00～16:40 閉会セレモニー&全体会議</p> <p>【ポイント・内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・今年「住まい」をキーワードに、被害を受けた女性やシングルマザーなどが安心安全な住まい（シェルター）を得て、尊厳ある暮らしが営めるよう、支援を続ける団体や専門家による問題提起や報告がなされた。・また女性をめぐる様々な法改正が相次ぐ今、課題について議論されるなど、これからの女性支援について活発な議論があった。

所感・
まとめ

【目的の達成状況】

- ・全国大会に参加することで、「住まいは人権」としてシェルターの在り方や現状、課題について、全国の先進的な活動や他団体の活動での悩みなど生の声を聞くことができた。他にも共同親権などの法改正が進む中での課題、共同親権などに絡む相談員の対応について学ぶことができ、学びを深めることができた。

【課題や感想】

- ・DV加害者対策は、日本は諸外国と比べて30年以上遅れており、これからどうしていくのか、何が問題なのかを学ぶ必要がある。また今後は男性相談員も必要。
- ・DV被害者が完治するには短期間ではなく、長いプロセスが必要（長期戦）。
- ・DV加害行動の修正のために努力をするプログラムの社会的意識を高めることが大事。そのためには加害者プログラムの関連費が自治体で予算化できないか。
- ・デジタル性暴力被害支援では、写真や動画をとることは犯罪だと相手にはっきりと伝えることの重要性が説明され、写真や動画の削除要請も行われていた。
- ・スマートフォンが生活に必要なものとなっている中で、シェルターでの所持をどうしていくのか、各団体の取り組みが報告された。
- ・共同親権については不透明な部分や課題があり、現在、国でガイドラインを作成中のため、完成までに課題が解決されるような働きかけを行う必要がある。
- ・初めての参加だったが、それぞれの団体の力強い活動や工夫を聞かれたことがとても学びになった。10年前には活動が注目されていた団体が、今回は経済的理由や市の方針転換で存続の危機となり、署名活動をされていたのには驚いた。反対に、県全体でチームを組んで高いレベルの教育を行いプロフェッショナルな人材育成をされ、年間8000人に対応しているとの報告もあり、活動を続けていくには、いろいろな協力関係が必要だと思った。
- ・女性の住まいの確保が十分ではないこと、シェルターの決まり事の違いや相談員の確保や待遇、法改正の課題など様々な課題があり、活動を進める難しさを感じた。また課題解決のためには、より一層国の動きなども注視する必要があると感じた。
- ・DV加害者の心理や行動、そして支援は、被害者支援と同時に進めていかなければDV被害は減少しないのではないかと感じた。
- ・DVはジェンダーに基づく暴力。どうしたらDVも女性差別もないジェンダー平等社会にしていけるのか考えさせられた。

【今後の団体での取組】

- ・すべての人が自分らしく生きていくことができる社会になるよう、今回学んだ他団体の活動の悩みなどを参考にしながら、今後のひとひとネット武雄の活動の中で生かしていきたい。
- ・私達のような少人数の団体は、県内や近隣県の団体と連携していくこと、若い人の相談に寄り添うためには、SNS等の活用も含め検討していくことが大切だと感じた。